

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

杉田地区は、国道357号の海側の工業地、国道16号やJR根岸線の沿線の市街地（杉田1、4～5丁目）、丘の上に形成された住宅地（杉田坪呑、杉田2～3、6～9丁目）に区分されます。高齢者（65歳以上）の比率は27.4%、75歳以上の高齢者の比率は13.8%といずれも区の平均に近い比率となっておりますが、杉田7丁目においては高齢者（65歳以上）の比率が42.4%と高齢化が進んでいる地区も多くあります。また、地域福祉保健計画の推進力となる自治会町内会も、核となる役員の交代などにより、新旧役員の共通認識が高まりにくい現状もあり、地域特性に合わせた支援をしていく必要があります。担い手の高齢化も進んでおり、担い手の発掘、育成は喫緊の課題です。そのような背景も踏まえ、すべての地域住民が、地域への関心を深め、地域課題を「我が事」としてとらえ、行動することができるよう、地域特性・地域課題等を考慮した、工夫をした働きかけ等を行っていく必要性があります。

今年度の重点的な取組

| 新規 | 継続 | — 具体的な取組内容 — |
|-------------------------------------|-------------------------------------|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 民生委員と協働し作成している要援護者「マップ」を基に地域別要援護者一覧の見直しを行い、地域の特徴的な課題を明確化していく。 |
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | 地域のサロンや会合等の参加時に地域住民へアンケート調査や聞き取りを行い、身近な地域課題の共有化を図る |
| <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | 協力医と共に、ケアマネジャー向けの勉強会開催。医療と福祉のより良い連携をとれるように、1回目は医師との意見交換会。2・3回目は「看取り」をテーマに研修を行い、ケアマネジャーのスキルアップを図る。 |
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | 詐欺被害や消費者被害防止に向けた地域づくりのための包括レベル地域ケア会議を2回実施する。会議では詐欺被害の現状を知ってもらい、地域で取り組めることについて検討し、消費者被害防止に向けた具体的な対策を考え取り組んでいく。 |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | |

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

「我が事・丸ごと」の地域づくり・包括的な支援体制の整備に向け、他人事を我がごとに変えていけるよう、様々な働きかけを行いました。具体的には地域行事等への積極的な参加を通じたケアプラザの普及啓発（令和2年1月末現在で計59回）や、民生委員やケアマネジャーの相談から見えてきた身寄りがない一人暮らし高齢者の地域での見守りについての個別地域ケア会議の開催（計2回）、区域の課題ともいえる消費者被害防止に向けた包括レベルの地域ケア会議の開催（計2回）。また、買物に困っている方のアンケート調査を区、社協と協働で9単位自治会（812名）に対して行うなど様々な取組を行いました。次年度に向けては、地域情報の把握・分析の強化、地域への関心力を高めるような仕掛け（地域広報誌の発行など）を行うことにより、地域の価値を高める力である「地域力」の育成・向上に向けた取り組みを進めていく必要があります。

区からのコメント

ケアプラザを広く知ってもらうための普及啓発や買物支援についてなど、幅広く具体的な取り組みが進められています。身近な課題を共有することで、地域力を高めるための意識付けにもつながっています。来年度は地域福祉保健計画策定の年度になるので、エリア会議を活用した情報共有やアセスメントを通して、今後の方向性を明確にしていきたいと考えています。そこから、地域の全体としての意識醸成や結果につながるような動きが出来るよう協力をお願いします。また、日頃から民生委員や支援者らと連携し身寄りのない高齢者の把握に努め、個別的な支援をしていただいています。包括レベル地域ケア会議で消費者被害防止に取り組み、地域事業の際に普及啓発に努めました。今後より一層、地域住民との関係づくりに努めていただきたいと思います。